統一された，ニユークな，躍動，濶歩する「地誌」を続々と編まれて，混沌たる地理学界に道標を照し出していただき，以って日本，アジア，世界のすぐれた人間の相互認識，信頼，向上に資していただきたいと私は愚意を提する次第である。ここにご退官をお祝いすると共に，ご長寿，ご研鑽を切に祈つて已まない。

変りゆく地理教室

浅海重夫

渡辺教授の停年退官をむかえたこの年，お茶大地理学教室は昭和２４年の新制大学発足以来満２１年を数え，その間１８回の卒業生を世に送り出した。

先代の教室主任の飯本先生が，昭和３３年に日大に移られてからすでに１２年を経ている。飯本時代を地理教室の第１期とすれば，その時代の学生諸姉の大部分は，いまや息子や娘の進学の心配などしている大昔の卒業生で，現在の教室からみればそれらの人達は古生代の化石のようなものである。もっとも，それ以前に飯本先生の薫陶をうけた女高師時代の大先輩もおられるが，そのようなブレカンのおばさまたちのことは私には全くわからない。昭和２８年３月の第１回卒業生の追出しコンパのさい，その直前に着任していた私の歓迎会をコミにしてもらった憶えがあるから，私はともかく１８回分の全卒業生諸姉を一応知っている。

飯本主任から渡辺主任にひきつがれた前後に，教室の他の教官にも大幅な異動があり，能・赤木先生に代って武・吉田先生の登場となった。この時代は地理教室の第２期（中生代）といえる。そして昭和４１年の大学院修士課程発足以後はいわば第３期（新生代）で，それまでの２講座半が３講座に拡充され，浅井・正井両先生を加え，他大学にもあまり類を見ない多分野の専門スタッフを擁する地理教室となって現在に及んだ。

第１期以来今日まで，教授側の指導体制や研究教育の方法，学生諸姉の勉学・お遊びその他全般的学生気質は，さまざまな点で大きく変ってきたことに気づくが，大げさにいえば常に新しく変る時代の思潮と技術革新の影響が，われわれの教室にも如実に現われたとみることができる。それらの変ぼうの一端を示してみよう。

まず学生気質。講義室や集会室に放課後や休日にも入りびたって，おかしをたべながらおしやべりをし，時に研究室の模様がえがあればすすんで無報酬の奉仕をするといった風習は，古生代の末期までに絶えてしまったように思う。巡検の宿で先生にいたずらをして喜ぶのも中生代の初期まで，その頃はほかにひまつぶしのたねがなかったのかも知れない。他大学の学生との交流がさかんになるにつれて，教

室内での社交的交流が減り，同時にスポーツに余暇を楽しむ習慣もなくなったらしい。おしゃべりではなくてクラス討論がもたれるようになる。お茶摘みにくる男子学生が増えたのは，中生代あたりからであろう。

巡検や卒論でフィールドを歩きまわることは，地理学科を選んだ以上当然だと思う気風が今時代と共にうすれていることは確かだ。しかし地理の学生は旅行好きばかりであることは今も変りがない。テレビなどの視聴覚学習と情報化の時代の波の中で，本を読み，本を買うことが少くなったことと並んで歩かないですませ，なるべく要領よく能率的にすまそうという新しい感覚の人間がふえたのである。

一方，学習教授上の能率が次第に向上したことも当然である。ガリ版ずりのプリントは中生代中頃までの遺物となり，配布資料はすべてリコピーに代った。ところが複写器の日進月歩のため，2年位前の器械がたちまち時代おくれになるので，更新に悲鳴をあげかねない情況である。ゼロックスはまだ講義用に自由に使うところまでいっていない。マジックインキというのがはじめて出現したのは，第3回生が卒論発表のゼミをした頃だったと思うが，この種の筆記具は，ボールペンやポリエチレンのサンプル袋，セロテープなどの導入とともにすばらしい生活革命をもたらしたものだ。思えば私どもの年輩は，学生時代に布袋を作って岩石の採集に出かけ，矢立を腰にさげてフィールドを歩いた経験をもつ最後のジェネレーションの人間であった。

卒論のフィールドで自転車を使い，歩くより何倍かの能率をあげて機械化だなどと喜んでいたのはその昔の話。第13回生の卒論指導ではじめて自動車による調査を行い，いかに能率的かつ現代的なものであるかを教えられ，その後私自身も研究調査に巡検卒論に，車を駆使することになった。これも新生代の劃期的な特徴であろう。自動車の効用の1つは，重い器械，かさばる物，その他何でも無雑作に持運べる便利さにある。ボーラー，電探，採集資料などの運搬に大へん重宝する。

空中写真の資料は，渡辺先生の着任以来多量に蒐集され，実体鏡，ステレオトープなども備えられて便利になった。カラースライドの教育上の価値もますます増大している。しかし，世間一般の技術革新のテンポに比べて，おくれていると思われる面も多い。ではあるが，次の時代にぜひ実現させなければならないのは，教育面においては更に充実した視聴覚施設やコンピューターの利用であり，調査研究面では表層地質を調べる簡易電動ボーリング，ヘリコプターを自由にとばしての空中写真撮影などであろう。その時代には学生の気風もまた変るだろうが，人間革新の方は予想を立てがたく，としをとる教師側は学生の変容にますます戸迷うことになるだろう。しかし地理に対する学習意欲だけは受けつがれて行ってほしい。それは未知の土地に旅行したいという素朴な興味から発展するものでよいのだから。